

平成 30 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4 年間の目標 (平成28年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		学校関係者評価	総合評価	
			具体的な方策	評価の観点	(3 月 25 日実施)	成果と課題	改善方策等
1 教育課程・学習 指導	<p>①教育課程の改善を図り、確かな学力向上を推進し、幅広い教養と課題解決力を身に付けさせる。</p> <p>②学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>①-1 55 分授業を活用し、目標提示と到達度認知させ、進路実現への意欲を引き出す「進路指導のある授業」実践、家庭学習の奨励。</p> <p>①-2 思考力、判断力、表現力育成のための「主体的・対話的で深い学び」と評価の組織的研究推進。</p> <p>②学校生活の振り返りから自己の変容を認知させる指導体制の確立。</p>	<p>①-1 単元計画で「何をできるようにするのか」明確な目標提示と振り返りや演習・課題等の充実および進路希望調査結果等を活用し、定期テストで過去入試演習の導入。</p> <p>①-2 単元計画に基づいた「主体的・対話的で深い学び」の実践およびプロセス評価研究・研修。</p> <p>②行事や委員会・部活動の目標設定と振り返りおよび活動履歴作成指導。</p>	<p>①-1 共通テスト割合調査の継続と入試演習の割合調査、生徒による授業評価新項目による状況調査。</p> <p>①-1 スタディーサポートにおける家庭学習時間検証。</p> <p>①-2 授業研究会議の実践報告。</p> <p>②振り返りシート作成、指導計画を策定できたか。</p>	<p>確かな学力向上に向けて、55 分授業の導入、授業研究会議の度々の開催、大学入試問題を生かした授業等、学校あげた取り組みがなされた。学校の取組みについて、生徒はどう受けとめ、主体的な課題解決にどう活かそうとしたか（あるいは、活かすことができなかったか）「生徒本位」の検証の視点で臨んでいただきたい。（学校運営協議会委員意見）</p> <p>授業改善で取り扱う内容は、ルーブリック評価以外にも、生徒による授業評価や「進路指導のある授業」の推進等、たいへん多岐にわたり、業務量も大きい。効率性や効果の観点にたち、引き続き授業改善を推進していただきたい。（学校運営協議会委員意見）</p> <p>改善方策のひとつとして、複数の研究テーマごとに、分科会で通年での理論研究・授業実践を重ね、授業研究会議の場で集約・共有化を図る、なども検討願いたい。（学校運営協議会委員意見）</p>	<p>①-1 国語 80%、地歴 70%その他の教科は 100%共通テスト割合達成。入試問題導入率は国語現代文 B 学年末 20%現代文研究後期中間・学年末 100%地歴公民現代社会前期中間期末 15%日本史 A 前期中間期末 10%日本史 B 前期中間期末 20%数学 I 年間 10~30%数学 A5~20%数学 II 20~60%数学 B20~30%数学 III 40~70%英語表現 I 後期中間・学年末 10%英語表現年間 100%英語研究 70~100%応用英語年間 100%。</p> <p>①-1 生徒による授業評価新項目の「授業で明確な目標提示があるか」という項目、「自分の取り組みを反省し、より良い取り組み方を考えている」という項目では 9 割が当てはまる、ほぼ当てはまると回答。表現力・コミュニケーション力の育成を測る項目でも高い数値が得られた。</p> <p>①-1 春と秋を比較すると、1 年生は学習時間が減る傾向にあり、2 年生は伸びる傾向にある。</p> <p>①-2 5 回開催。研究した内容を校内研修で全職員に還元し、職員が目的を共有して組織的な授業改善に取り組む足がかりとなった。研究成果は十分であったので、組織的取り組みにつなげていくことが次年度目標である。</p> <p>②振り返りを 9 時間実施。機会を捉え図式化して思考を深めてから文章にした。</p>	<p>①-1 共通テストについては達成できた。入試問題導入については、生徒への動機づけとして、進路意識が醸成されるよう指導することが大切である。次年度も継続したい。</p> <p>①-1 振り返りが自己課題解決につながる指導の継続が必要である。</p> <p>①-2 高大接続改革で求められている学力の 3 要素についての意識付けが必要である。組織的ルーブリック評価の導入など主体的・対話的で深い学びの授業実践をさらに進めていきたい。</p> <p>①-2 全職員で生徒の現状を分析して課題を整理し、学校が目指す生徒像、生徒つけさせたい力を考えて目標を共有し、協働していくことが必要である。</p> <p>②振り返りシートを作成し、評価することも記載できるように改善する。</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価	
			具体的な方策	評価の観点		成果と課題	改善方策等
2 生徒指導・支援	<p>①部活動の活性化を通して、責任感や連帯感、他者と積極的に関わろうとする姿勢の涵養を図る。</p> <p>②規範意識の醸成を進め、自他を尊重する心を育成する。</p> <p>③生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。</p>	<p>①教科外活動の充実。</p> <p>②授業時の携帯、ピアス指導の徹底。</p> <p>③組織的な教育相談体制を整える。</p>	<p>①-1「百合丘芸術祭」実施と部活加入率70%への取り組み継続。</p> <p>②指導状況の検証。</p> <p>③欠席数調査、アンケートで、問題行動やいじめにつながる行為を未然に防止する。</p>	<p>①-1 百合丘芸術祭実践報告および部活動加入率。</p> <p>②携帯、ピアス指導カード発行枚数と検証。</p> <p>③協議件数と対応、面談実施状況。</p>	<p>高校生等の若者は、情報社会の恩恵を受けつつも、一方で強大な情報ネットワークのターゲットであり、被害者にもなりがち。引き続き情報リテラシーに関する指導とともに、これからのAI時代を生き抜くために、学校はどう関与していくのか等、手遅れにならないうちに何らかの手立てや情報の発信が必要である。(学校運営協議会委員意見)</p> <p>貴重品管理などの方針を保護者にも知らせてほしい。盗難防止に協力したい。(保護者意見)</p>	<p>①-1 2年全員参加。音楽クラス、ハンドベル発表、美術クラス、作品展示、書道クラス、作品展示とパフォーマンス。部活動加入率65%。校外活動参加者86名。</p> <p>②携帯1年88名2年145名3年44名ピアス1年6名2年16名3年1名1人で5枚の警告(レッドカード)者なし。</p> <p>③学校生活アンケート、7月、11月実施。ケース会議8回実施。</p>	<p>①-1 生田高校との球技大会の復活や芸術祭など、担当生徒の主体性をはぐくみことができたが、全生徒が行事に主体的に取り組める意識付け、協働態勢が課題である。</p> <p>②職員指導における、授業開始時の規律徹底が必要である。</p> <p>③集会、面談等あらゆる機会を通して指導を徹底する。</p>
3 進路指導・支援	<p>世界を視野に入れた社会貢献について、生徒が自らのキャリア発達を意識できる進路指導の充実を図る。</p>	<p>①あきらめさせない進路指導で大学進学60%を目指し、自学自習力につながる組織的学習支援体制を構築する。</p> <p>②キャリア形成における変容のメタ認知指導の実践。</p>	<p>①-1 学習、進路、生活三位一体の3か年指導計画およびデータ分析による数値目標の設定。</p> <p>①-2 進路指導における学習支援体制の整備。</p> <p>②行事や委員会・部活動の目標設定と振り返りおよび活動履歴作成指導。(1の③再掲)</p>	<p>①-1 3か年指導計画、実力テスト数値等のデータ分析と指導方針が共有されたか。</p> <p>①-2 夏期講習、自習室利用の実施状況。</p> <p>②生徒に活動報告書を作成させることができたか。(1の③再掲)</p>	<p>自習室や夏期講習の取り組みなどは保護者にも知らせてもらえたら、家庭でも促すことができる。良い取り組みなので、保護者との連携も視野に入れて、続けてほしい。(保護者意見)</p> <p>希望があれば補習などで対応してほしいが、あくまでも生徒たちの意思による取り組みが大切だと思う(保護者意見)</p> <p>活動報告書等を活用した取り組みや面談指導の充実等に努め、体系的計画的なキャリアガイダンス体制の整備が重要である。(学校運営協議会委員意見)</p>	<p>①-1 進路年間指導計画(1学年)を立案した。実力テストの数値分析を各教科に示し、進路通信を発行(第5号)</p> <p>①-1 実力テストの数値分析を各教科に示し、進路意識を高めた。</p> <p>①-2 夏期講習は延べ180名参加。自習室を整備しプリントも用意したが、活用状況はあまり活発とは言えなかった。</p> <p>②活動報告を年間通じて記録し、一年のまとめを電子データに入力させた。</p>	<p>①-1 次年度は実力テストに加え、模擬試験を導入する。生徒の意識付けとともに、分析会を行い、各教科で今後の方策について検討する機会を設ける。</p> <p>①-2 自習室の様子を進路通信など利用して周知する。自習用プリントの内容を再考する。</p> <p>②データ入力後の添削を各担任がweb上にて行い、生徒とともにデータ化に向けた体制づくりが課題である。</p>
4 地域等との協働	<p>連携・交流を活性化させ、地域に親しまれ誇りとされる学校づくりを進める。</p>	<p>①「社会のために活動する」意識の醸成。</p> <p>②広報活動の充実を図る。</p>	<p>①生徒会、部活動における地域交流活動の推進</p> <p>②広報活動の内容充実と生徒の参加を増やす。</p>	<p>①委員会・部活動等による地域交流活動の集約数。</p> <p>②学校案内改訂広報活動参加生徒数。</p>	<p>引き続き、地域は学校の教育活動に協力していきたい。(学校運営協議会委員意見)</p>	<p>①地域貢献デー(1年397名、3年有志44名参加。部活動・同好会26団体参加。)にこにこハーモニー(11部活動、88名参加。)</p> <p>②学校案内を大幅に改定した。学校説明会への参加数も、第1回(生徒5名、1部活動)第2回(生徒8名、9部活動)第3回(8部活動)であった。</p>	<p>①3年生の生徒の参加率が高かったため、来年度も引き続き声かけが必要。</p> <p>②参加から参画になるよう、生徒が話す場面を増やすことが課題。また、学校紹介用のビデオなどにも積極的な参加を促したい。</p>
5 学校管理・学校運営	<p>責任ある組織的業務を推進し、信頼される学校づくりを進める。</p>	<p>①相互点検のある職場づくり。</p> <p>②働き方改革の推奨。</p> <p>③避難所対応、帰宅指導、職員配備など実践的な防災訓練への改訂。</p>	<p>①-1 成績処理システム、指定校推薦手順マニュアルの周知徹底。</p> <p>②部活動休養日計画とノー会議デーの設定。</p> <p>③避難所対応マニュアル作成および職員の初動対応訓練の実施。</p>	<p>①-1 点検後訂正数の推移調査。</p> <p>②部活動の平日・週休日休養日調査とノー会議デーの実施状況。</p> <p>③防災訓練を改善することができたか。</p>	<p>学校の環境づくりとして、一足性を導入して、昇降口を整備するもよいのではないか。(保護者意見)</p> <p>防災グッズなど保護者としても不安である。防災倉庫などの整理に協力したい。(保護者意見)</p> <p>働き方改革は、教育行政が先ず責任をもってすすめるべきで、「改革」が学校に新たな負担を生じさせないこと、及び「改革」に必要な人員の手当てを速やかに実施していただきたい。(学校運営協議会委員意見)</p>	<p>①クラス出欠・欠課時数の訂正件数は43件。</p> <p>②全ての運動部が平日の休養日数と休日の休養日数を規定通り遵守し活動。ノー会議デー3回実施。</p> <p>③初動マニュアル(校内版)作成。防災訓練関係では、3回実施。近隣自治会防災担当者や連携し地域住民の一時避難場所の確認。</p>	<p>①職員一人ひとりの事故防止への意識を高める必要がある。</p> <p>②文化部の休養日の設定に取り組むたい。ノー会議デーを継続し、定着を図りたい。</p> <p>③実施時期等を考慮する必要がある。4月に班別表を作成し、班別行動を行い、6月で防災避難訓練を実施したい。</p>